図書館だより

市立図書館　☎72-4319　ファクス72-3501
開館時間　午前10時～午後６時
※金曜は午後８時まで（変更になる場合あり）
HP www.library-ogori.jp

新年お年玉特集

あけましておめでとうございます。今回は、新年お年玉特集として、令和元年５月に小郡市ふるさと文化大使に就任した作家・帚木蓬生さんの話題をお届けします。

帚木 蓬生（ははきぎ ほうせい）

作家、精神科医。1947年、小郡市生まれ。東大仏文科卒業後、TBSに勤務。退職後、九州大学医学部で学び、精神科医に。吉川英治文学賞など受賞作多数。写真は、令和元年に開催した大使就任記念講演会の様子。

３月に待望の新刊を刊行！

帚木さんの著書には、歴史や社会をテーマにした作品以外に、医師の視点で書かれたものがあります。

４月に刊行された『老活の愉しみ』（朝日新聞出版）は、年を重ねても生き生きと暮らすための指南書。帚木さんが実践している「食事・習慣・考え方」なども紹介しています。

また令和３年３月には、待望の新刊『沙林（仮）』が刊行予定です。地下鉄サリン事件から26年目を迎える令和３年、ついにオウムの全犯罪を暴く大作が完成。科学的な記述も満載の本作をどうぞお楽しみに。

図書館には、直筆のサイン入りの本もあります。（貸出可）

**令和元年11月、医療現場を視察するため、帚木さんがキューバを訪問しました。
キューバは、医療先進国として知られており、世界中で高く評価されています。
帚木さんからキューバでの体験を寄稿いただきました。**

コロナ禍でキューバの良さを知ろう

キューバは、成人した国民の８～９割が公務員で、税金はありません。学費と医療費も無料です。成人になると住居が支給されます。学校は通常の勉強をする普通学校と、美術学校、音楽学校、スポーツ学校の４つがあり、どの子もそのうちのどれかを選ぶので、不登校などもありません。成績上位の子は大学院まで行け、外国留学もできます。キューバの美術と音楽、スポーツが世界的に有名なのはそのためです。

医療費がすべて国家負担なので、国が力を入れているのは予防です。医学部教育は特に充実し、南米諸国からの留学生を多数受け入れています。自国の医師を、医療が遅れている国々に輸出をしているのも、キューバの特長でしょう。このコロナ禍でも、多数の医師団を派遣しています。外国で働くキューバの医師は、報酬の一部を母国に送金するのです。キューバ出身の野球選手も同様です。

道路掃除をする人も公務員である反面、レストランや音楽ホールのオーナーは私的な経営者であり、収益の多く（最大８～９割）を税金として国に納めます。こういう施策なので、ひきこもりとも無縁です。

資源はニッケル、産物もオリーブにミカン、コーヒー、タバコぐらいしかないキューバで、どうしてこうした公平な政策が可能なのでしょうか。首相ですら並の公務員の３倍程度の給料だからです。精神科病院の中に巨大な野球場があり、地域住民も患者さんもそこでプレーします。院内に職員と患者さんの楽団もありました。精神科医の大半は女性で、聞くと国会議員の53%は女性だそうです。

こうした格差のない国造りができたのも、カストロやチェ・ゲバラによる建国の理念が今なお生きているからでしょう。

帚木蓬生

全文を市ホームページに掲載しています。